

2024 年度

学校自己評価報告書

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

2025 年 6 月 20 日
学校法人神戸学園
専門学校アートカレッジ神戸

1. 学校の現況

1. 学校名

専門学校アートカレッジ神戸

2. 所在地

兵庫県神戸市東灘区向洋町中 1 - 1 5

3. 沿革

1965 (昭和40) 年 1 1 月	芦屋市に芦屋芸術学院創設
1967 (昭和42) 年 2 月	各種学校芦屋芸術学院認可
1974 (昭和49) 年 1 月	学校法人認可
1976 (昭和51) 年 4 月	芦屋芸術学院専門学校認可
1982 (昭和57) 年 8 月	無料職業紹介事業許可
1988 (昭和63) 年 1 1 月	文部省専修学校職業教育高度化開発研究校に指定
1990 (平成 2) 年 4 月	文部省専修学校開放講座実施校に指定
1 0 月	芦屋市市民文化賞受賞
1991 (平成 3) 年 4 月	校名を「芦屋芸術情報専門学校」と改称し、六甲アイランドに移転
2001 (平成13) 年 4 月	校名を「専門学校アートカレッジ神戸」と改称
2002 (平成14) 年 4 月	学校法人神戸学園に設置者変更 (兵庫県知事認可)
2005 (平成17) 年 2 月	西校舎を増設 (姉妹校: 神戸動植物環境専門学校)
2008 (平成20) 年 4 月	高等課程設置認可 総合アート学科 (3 年制) を設置
2013 (平成25) 年 4 月	校名を「神戸スポーツアート Cocoro 専門学校」と改称
2015 (平成27) 年 4 月	校名を「専門学校アートカレッジ神戸」と改称
2016 (平成28) 年 4 月	国際コミュニケーション学科を設置
2018 (平成30) 年 4 月	観光学科を設置
2019 (令和元) 年 4 月	総合アート学科 ゲームコース設置
5 月	台湾 樹徳科技大学 来校 交流学习
8 月	実習施設 神戸学園水族館 AQUATEXT 設置
2020 (令和2) 年 3 月	学校法人神戸学園 大規模修繕工事実施
2021 (令和3) 年 4 月	ダンスインストラクター学科、通信制学科、DX ビジネス学科を設置
	第 1 回 AKI 神戸キャリアフォーラム®2021 を開催
2022 (令和4) 年 4 月	DX ビジネス学科(2 年制)、e スポーツ学科を設置
1 2 月	第 2 回 AKI 神戸キャリアフォーラム®2022/DX フォーラムを開催 オードリー・タン大臣講演

2023（令和5）年	8月	第3回 AKI 神戸キャリアフォーラム®2023/DX フォーラムを開催 開催オードリー・タン大臣基調講演パネルディスカッションオンライン登壇 JAL×ANA 対談 開催
2024（令和6）年	3月	文化・教養専門課程 観光学科、文化・教養専門課程 国際コミュニケーション学科が職業教育実践専門課程として認定を受ける
2025（令和7）年	3月	ダンスインストラクター学科を廃止

4. 学科の構成

専門課程

- ・文化・教養専門課程
イラストデザイン学科
国際コミュニケーション学科
- 観光学科
- 通信制学科
- eスポーツ学科
- DXビジネス学科(1年制)
- DXビジネス学科(2年制)
- ・工業専門課程
航空グランドハンドリング学科

高等課程

- ・文化・教養高等課程
総合アート学科

5. 学生数及び教職員数(専門課程)

- ・2025年5月1日時点学生数：1,829名
- ・2025年5月1日時点職員数：90名

6. 施設の概要

学校建物面積：2,810 m²

学校土地面積：2,845 m²

II. 評価の基本方針

自己評価は、本学の指名である学生・保護者満足を目指し、日々着実に経営し、職業教育を行うことで、その成果として業界への就職実績を上げるという目的に対して、それぞれの項目ごとの進捗を判断するものとする。

Ⅲ. 重点目標

1. 学生募集への積極的な取組

定員数を充足する学生の入学を実現する。

2. 社会への即戦力を輩出するための実践的な教育の実現

①教育理念・教育目標の周知徹底を図り、②教育環境を整え、③日々の教育活動を通じて、
④学習成果を高め、具体的には学生の出席率の向上及び退学除籍率の低減を実現する。

3. 学生の就職率の向上

学生支援を通じて、卒業生の就職率の向上を実現する。

4. 適切な学校運営法令順守等

適切な学校運営を行うとともに、法令順守体制を整える。

■評価項目

1. 教育理念・教育目標

2. 学校運営

3. 教育活動

4. 学習成果

5. 学生支援

6. 教育環境

7. 学生募集

8. 財務

9. 法令等の遵守

10. 社会貢献

項目評価

1. 教育理念・教育目標

自己評価項目	評価
教育理念・教育目的は、学校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性がある。	4
教育理念・教育目的は、具体的に明示され、実際の指針となっている	4
教育理念・教育目的は、社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
教育理念・教育目的は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

専門学校アートカレッジ神戸は教育基本法および学校教育法に基づき高等学校における教育の基礎の上に文化・教養専門課程を設置し、「あなたがいて私がいる」の基本理念を掲げ、教育に携わっている。この教育理念は、第一に授業（カリキュラム・シラバス）、第二に就職指導として具現化している。

2. 学校運営

自己評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

3 か年計画を策定し、年度ごとに事業計画を立てて取り組んでいる。運営組織は明確に設定されており、各部署での配置や指揮系統は有効に機能している。また、必要に応じて都度配置換えが行われており、状況に沿って最適な運営組織を組み立てている。人事、給与に関する規定の整備、教育活動等に関する情報公開についても適切になされている。

情報システム化等の部分では、申請書類の電子申請化、券売機の入替等による業務効率化が行われている。

3. 教育活動

自己評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	3
教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修などが行われているか	3

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

学生の多様な価値観・社会性を育成するため、校外学習等では様々な芸術に触れる機会を儲け、個別指導型の授業を行い、学生個人の「あなたがいて私がいる」の教育理念を浸透させている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるようカリキュラムが設定されている。

4. 学習成果

自己評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

1 年次より就職を意識した内容の授業を受け、課題をこなしていくことで自身のキャリア形成について考える時間を設けている。卒業生の実績をもとに在校生へのアプローチ方法を毎年更新できるように職員内で共有し把握している。

5. 学生支援

自己評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

学生への面談を定期的に設けており、そこで学校生活や進路について聞き取るようにしている。また、学生の希望に合わせて適宜面談は行うようにしている。面談をはじめ、学生が学業に専念できるような環境への配慮は徹底している。また、面談内容などによっては保護者面談も実施しており、保護者においても希望があれば適宜個別での面談を行っている。

社会人、高校、高等専修学校が望む教育環境においても個人のキャリア形成を促せるよう個別指導型の授業を行っている。

6. 教育環境

自己評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

在校生の成長を促すために必要な施設・設備は整備されており、またニーズに合わせてアップデートしていけるよう年度ごとに精査している。

学外のインターンシップにおいては在校生に案内しているが、海外研修などは現在行っていない。防災に関してはオリエンテーションなどで案内や説明を行っている。

7. 学生募集

自己評価項目	評価
学生募集活動は適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

資料請求などで配布する学校案内（パンフレット）や募集要項は年度ごとに更新しており、学生募集活動においても活用している。また、学生募集活動を行う上で学内の教育成果（受賞実績や就職実績等）は年度ごとに情報を職員間で共有し正確に伝えられている。

学納金においても年度ごとに学内で精査されている為、妥当なものとなっている。

8. 財務

自己評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

学校法人神戸学園は本部を東京に配し、財務計画を立てている。予算収支は計画通りに遂行され、監査法人による監査も毎年おこなわれており、財務面での問題はない。

9. 法令遵守

自己評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

遵法意識を持ち、義務と責任の下適切な運営を行っている。

顧問弁護士との適宜打ち合わせを行っており、課題が生じた際には意見を伺いながら対処を行っている。また再発の防止についても専門機関に意見を聞きながら遂行している。

10. 社会貢献

自己評価項目	評価
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

(4)適切(3)ほぼ適切(2)やや不適切(1)不適切

地域で行われるイベントや作品展示の場などに積極的に参加しており、社会貢献・地域貢献できていると言える。

現状、学生のボランティア活動を奨励はできていないが、参加する場合の支援は行っている。また、地域の小学校・中学校・高等学校などに対して体験授業を開講または職業体験や職員へのインタビュー対応など地域の教育機関への支援のみ積極的に行っている。